

北原白秋氏の肖像

木下杢太郎

青空文庫

……願ふは極秘、かの奇くしき紅の夢……（「邪宗門」）

性慾の如くまつ青な太陽が金こんじき色の髪を散ちらして、

異教の寺の晚鐘の呻吟うなりのやうに高らかに、然しかしさびしく、

河の底へ……底へ……底へ……と沈む時に、

幻想の黒い帆前ほまへは

滑つて行く……音もなく……

明るい灰色の硝子がらすの外で、

氏は倚よれる窗まどの後うしろで――。

されば其その光トレモロの顫トレモロ音は悲しく、

氏の銅色の額に反射した。——恰ら

青の鶯が落日の檣の森で鳴くやうに……

雲の彼方の蘆薈花咲く故郷へ、故郷へ、ねえ、故郷へ……

…。

氏は卓の一角から罪色紅の〔Curacao〕《きゆうらさお》を取

つて

薄玻璃の高脚杯に垂した……重く……緩かに……。

その懐しい錯心のやさしい呼吸づかひの中に、

赤、紺青、土耳古珠色、「黄なつぽい」Sentiment色、

そのあまり日向つぽ過ぎる新しい（やや似合はない）

背広あやの文あやの音楽に首を埋うづめて

(かの邪宗、その寺の門前に梟首さかされた怪僧ひたひの額ひたひのやうに)

はげ
えきぞちすむ
烈はげしい異国趣味に飢ただゑ爛ただれた氏の表情は、

あらた

新あらたに南洋から歸つた商船の事務員の如く、

ひたすら卓上の罌粟けしくちびるの脣を見詰めて居ゐる。

(かの黒い幻想の帆前ほまへは力なく黙もだしたのに——。)

秋の日曜日ざつたふの雑沓ざつたふを恐るる象、

その如く濁つた瞳、瞳の中の青い花は、

日につぼん本の——厭あいた、勞つかれた

昼の三味しやみ、女の島田、音ねも低い曲節めろぢいから、

ああ、せめては中に雑まじる合かつ惚ぼれの進行曲まるしゆから、

『空にまつ赤な雲の色、玻璃はりにまつ赤な酒の色』から、

河に面くりした厨やの葉牡丹はぼたんの腋臭わきがから、

日を受けたタンク蒸氣の引いてゆく Cadence 《かだんす》から、

はた其そのかげの痛ましい 古聿シヨコラアの

とぎれとぎれの Strauss 《しゆとらうす》、Gauguin 《いろうぎやん》

の曲調の

うち絶えつ、またも響やく柔はらい薫かのうちから、

氏の厚い紫の唇いぢは苺いちじの紅い靈魂いんたまを求めて居る。

瞳ろまんちつくの青い羅曼底ろまんちつくは忘れた故郷ふるさとの香かを捜して居る。

日が暮れるまで……

日本の憂鬱いううつな十月よるの夜あなたの彼岸に

寂しい三味線しやみせんがちんちんと鳴り出すまで、

なほも善主磨ぜんすまろ、お・お・ら・つ・し・よいのりの祈をつづけながら……

無益むやくにも……

月かたの方に青ざめた帆前ほまへの黒い幻想を眺めながら……

青空文庫情報

底本：「書物の王国13 芸術家」国書刊行会

1998（平成10）年10月25日初版第1刷発行

底本の親本：「木下杢太郎全集1」岩波書店

1981（昭和56）年5月

入力：土屋隆

校正：川山隆

2006年12月30日作成

2007年1月28日修正

青空文庫作成ファイル：

このファイルは、インターネットの図書館、青空文庫 (<http://www.w.azora.gr.jp/>) で作られました。入力、校正、制作にあたったのは、ボランティアの皆さんです。

北原白秋氏の肖像

木下柰太郎

2020年 7月12日 初版

奥 付

発行 青空文庫

URL <http://www.aozora.gr.jp/>

E-Mail info@aozora.gr.jp

作成 青空ヘルパー 赤鬼@BFSU

URL <http://aozora.xisang.top/>

BiliBili <https://space.bilibili.com/10060483>

Special Thanks

青空文庫 威沙

青空文庫を全デバイスで楽しむ青空ヘルパー <http://aohelp.club/>

※この本の作成には文庫本作成ツール『威沙』を使用しています。

<http://tokimi.sylphid.jp/>